

令和3年度 横浜市民の防災・減災の意識、取組に関するアンケート調査結果

横浜市では、市民の皆様の日頃からの防災・減災の意識や自助・共助の取組状況を把握し、今後の災害対策の推進に活用するため、「横浜市民の防災・減災の意識、取組に関するアンケート調査(旧称:横浜市民の危機管理アンケート調査)」を、平成27年度から3年に1回実施しています。

このたび、令和3年度のアンケート調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

1 調査の概要

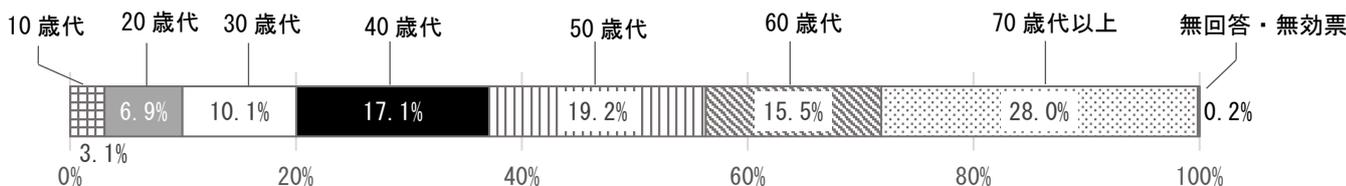
調査対象	横浜市内に居住する満15歳以上の男女個人(外国籍市民を含む)
標本数	10,000人(うち、外国籍200人)
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による自記入方式(無記名)
調査期間	令和3年6月18日～7月8日

2 調査項目(全51問)

- 地震について
- 風水害について
- 火山災害について
- 災害への備えや避難について
- 災害情報について
- 横浜市の災害対策に係るご意見について

3 回収結果

有効回収数(率) 3,553人(35.5%) 前回 2,682人(27.3%)



4 主な調査結果

別紙参照

5 調査報告書 及び 調査データ

横浜市ウェブサイト及び横浜市オープンデータポータルサイトから入手できます(集計に用いた調査データは自由にご活用いただけます)。

- 横浜市ウェブサイト: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/wagaya/enquete-r03.html>
- 横浜市オープンデータポータルサイト: <https://data.city.yokohama.lg.jp/>

お問合せ先

総務局防災企画課長 林 暁 Tel 045-671-2019

大地震への不安 [報告書 P29]

- 問6 近い将来、横浜市で、強く大規模な地震が起きるのでないかという不安を感じていますか。(1つ選択)
「感じている」(「強く感じている」も含む) 84.4% (前回 90.6%)

前回調査(平成 30 年度)と比較すると、大地震への不安を「感じている(「強く感じている」も含む)」と答えた人の割合は微減していますが、依然として、多くの方が地震への不安を抱いている傾向がみられました。

風水害への不安 [報告書 P59]

- 問 21 自分の住んでいる地域で、次のうちの風水害の不安を感じたことがありますか。(3つまで選択)
1位「竜巻、突風」 35.6% (前回 6位 19.5%)

前回調査では6位であった「竜巻、突風」に関する不安が、今回調査で1位となりました。
推測ですが、令和元年台風第 15 号(房総半島台風)における記録的な暴風など、近年、全国各地で大規模な台風被害が発生していることが影響していると思われます。

自助、共助の認知度 [報告書 P92]

- 問 40 あなたは、「自助・共助」という言葉を知っていますか。(それぞれ 1 つ選択)
聞いたこともあるし、内容も知っている
自助 60.9% (前回 48.5%)
共助 56.0% (前回 45.6%)

前回調査と比較すると、「自助」、「共助」ともに、「聞いたこともあるし、内容も知っている」と答えた人の割合が、5割超となりました。

家具の転倒防止の実施状況 [報告書 P40]

- 問 13 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのあるタンスや食器棚等の家具類を固定(転倒防止)していますか(粘着マットも含みます)。(1つ選択)
「固定(転倒防止)している」 62.9% (前回 58.8%)
「固定(転倒防止)していない」 36.1% (前回 38.9%)

前回調査と比較すると、「固定(転倒防止)している(「固定が必要な家具類はない」を含む)」人の割合は微増となり、前回調査と同様、半数以上の方が転倒防止を実施している状況となりました。「固定(転倒防止)していない」と答えた方の割合も、年々減少しており、少しずつですが、取組が進んでいる傾向がみられます。

通電火災、感震ブレーカーの認知度、感震ブレーカーの設置状況 [報告書 P48～58]

■問 16 地震による通電火災の発生を防ぐために、次のことが有効であることを知っていますか。(1つ選択)

地震時に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とすこと

「知っている」 74.1% (今回新設)

「感震ブレーカー」という器具があること

「知っている」 35.8% (前回 39.6%)

■問 17 あなたのご自宅では、「感震ブレーカー」を設置していますか(感震ブレーカーを「知っている」と回答した人が回答対象)。(1つ選択)

「設置している」 33.8% (前回 30.3%)

回答者全体でみると、12.1% (前回 12.0%)

感震ブレーカーの認知度及び設置状況は、約3割にとどまっている結果となっています。

一方、今回調査で、「ブレーカーを落とすことの有効性」に関する設問を新たに設けたところ、7割以上の方が、地震火災を防ぐには、ブレーカーを落とすことが有効であることを知っている結果となりました。

食料、飲料水の準備 [報告書 P79]

■問 33 あなたのご家庭では、災害に備えて何日分の食料、飲料水(1日1人あたりの目安は3リットル以上)を準備していますか。(1つ選択)

1日以上以上の備蓄をしている 79.4% (前回 76.9%)

3日以上以上の備蓄をしている 47.8% (前回 40.9%)

食料、飲料水の準備については、約8割の人が1日以上は準備している結果となりました。

前回調査と比較すると食料、飲料水を準備している人の割合は微増しており、少しずつ取組が進んでいる傾向がみられます。

マイ・タイムラインの認知度 (新設) [報告書 P63]

■問 23 「マイ・タイムライン」はご存じですか。(1つ選択)

「知っている」 5.5% / 「知らない」 92.3%

横浜市では、台風や大雨のおそれがある時に自分がとる避難行動を時系列で整理した「マイ・タイムライン」をあらかじめ作成しておくことを、市民の皆様に勧めています。

「マイ・タイムライン」については、未だ多くの人に認知されていない結果となりました。

避難行動等 [P70~76]

■問 28 あなたは、災害時の避難について、次のことを知っていますか。(それぞれ1つ選択)

・「避難」とは、難を避けることであり、安全な場所にいれば、避難場所に行く必要はないこと(今回新設)

「知っている」 82.6% / 「知らない」 13.9%

・行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難先になること(今回新設)

「知っている」 74.7% / 「知らない」 20.9%

・避難場所に避難する際に、できるだけ自分でマスクなどの感染症対策用品を持参すること(今回新設)

「知っている」 89.4% / 「知らない」 7.5%

・風水害の発生が予測されるときに発令される避難情報の体系のこと

「知っている」 51.6% / 「知らない」 41.3%

■問 29 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。

(1つ選択)

1位 「避難しない」 25.2% (前回 2位 19.0%)

2位 「避難指示(警戒レベル4)が発表された」 20.5% (前回 1位 23.4%)

■問 30 あなたが避難しない理由を教えてください。(1つ選択)

1位 「自宅に浸水や土砂災害の恐れがないため」 64.6%

2位 「屋内の方が安全なため」 20.3%

3位 「避難しなくても命の危険はないため」 7.8%

新型コロナウイルス感染症の流行下における避難を想定し、分散避難や感染症対策用品の持ち出しなどについての設問を新たに設けました。

分散避難や感染症対策用品の持参については、7割から8割と多くの方が認識している結果となりました。避難情報への認識は、約5割の方が、横浜市が発令する避難情報に関する知識を有している結果となりました。避難しない理由については、多くの方が「安全であること」を理由としている結果となりました。

以上